

●新聞記事等

市長發表

現状や課題を話し合う。

市は、低迷している健康寿命延伸を目指す一環で市民の食生活の改善に乗り出しているほか、2014年度に操南中学校（中区藤崎）が国のスーパー食育スクールに指定されたことなどから開催地に立候補していた。

大森市長は「大会を通じて、より多くの市民に健康づくりに取り組んでもらえるよう機会を高めたい」と述べた（藤岡慎吾）

■山陽新聞 平成28年3月25日号

イメージデザインを募集

岡山市内で来夏に開かれる「第12回食育推進全国大会 in おかやま」（農林水産省、市など主催）の市実行委



「第12回食育推進全国大会」にお
かやま」の大会テーマを決めた市
実行委員会初会合

山など34団
月までに2回開く。
(山内悠記子)

来年6月30日、同日の2日間、ハンションセ（北区駅元町）ナリーナ岡山（同じくすみ町）で開催。シンポジウムや展示などを通じて、健康的な食生活を続ける力を育む「食育」の重要性を確認する。

実行委は、県学校給食会や市医師会、市長は「朝食抜きや夕食の孤食など子どもの食生活が変化してきている」と指摘。「市民や県民に食生活の大切さを分かってもらう機会にしたい」と抱負を述べた。

事務局の市は、期間中に全国の自治体や教育、農林水産関係団体など約2万人の来場を見込んでいると報告。

パンフレットやグッズに使う大会の「イメージサイン」を市内の大学や専門学校、高校の学生・生徒から募集

■山陽新聞 平成28年8月3日号

今夏の食育全国大会

高校生シンポ、記念講演

市実行委 事業計画案を承認

2017年度の事業計画案を承認した実行委の会議

■山陽新聞 平成29年2月24日号

記念講演

画家を承認

終日は、料理研究家・土井善晴氏が記念講演するほか、高校生シンポジウムで市内各校の生徒らが食の将来などについて意見交換する。3月末までに実施する。ジッア町アノ山(同いみ町)では、旬にも大会の一般岡日とも教育に関する展示などを行う。

会議に約40人が出席。委員より大倉に「R山駅大通」に観光案内所を設けてどうか」といった提案があった。実行委

定。大会は、食育の普及と啓発が狙いで、市内内では初開催。実行委では初開催。市食育委員会は約2,500人の来場を見込んでいる。(山内悠紀子)

広報・報道

●新聞記事等

5チャンネル

デジタル 12 KCT 311

6.00 体操△10ガイド	6.15 専門ch△30晴れスポ
6.45 歌おうちみんで△55	7.00 on i ビジョンわいど
7.30 いきいき△40情報	7.45 看護師△55ギャラリー
8.00 神戸△10脚津	8.20 建設△30足守・高松
8.40 岡山井でえすき△55	9.00 お役立ち生活情報
9.30 on i ビジョンわいど	10.00 ショップ△30専門ch
10.45 夢△55	11.00 QVC
0.00 歌おうちみんで△30	0.25 こそだて△30 ESD
0.35 県警情報△40リンリン	0.45 いきいき△55情報
1.00 ぐるぐる中四国	1.30 お役立ち生活情報
2.00 神戸△10脚津	2.20 建設△30足守・高松
2.40 岡山井でえすき△55	3.00 あっちこち岡山
3.30 SHOP	4.00 放送大学特別講義
「ゆるくて楽しい歩行 間コミュニティ」	
4.45 晴れスポ	5.00 第19回 金婚夫婦
5.30 手作り△45こそだて	5.50 協働△55 ESDなび
6.00 神戸△10脚津	6.20 建設△30足守・高松
6.40 夢△55も太郎体操	7.00 いきいき△10情報
7.15 晴れスポ	7.30 あっちこち岡山
8.00 坂面ライダーキバ①	8.30 祝実大・岡山理科大 学合同ポップコンサ ート△1000 JAPAN
10.30 手作り体験△45専門	11.00 らくG.O.△30ガイド
11.35 夢△45看護師△55天気	0.00 ショップch (6.00)



「食育推進全国大会in
おかやま」

いきいきおかやま

岡山市の情報番組「いきいきおかやま」は、6月30日、7月1日に同市で開かれる「第12回食育推進全国大会inおかやま」について、人の来場を見込んでいます。

て市保健管理課の山邊真由美さん
「写真左」と岩崎和紀さん「同右」
に聞く。

同全国大会は、岡山コンベン
ションセンターとジップアリーナ岡
山を主会場に、現代の食をテーマ
にした講演会やシンポジウム、展
示会などを計画。2日間で約2万
人の来場を見込んでいます。

■山陽新聞 平成29年5月17日号

食育推進全国大会の主なプログラム
(いずれも事前申し込みが必要)

プログラム	時間	定員
オープニングイベント・表彰式など	前11時～後0時30分	500人
シンポジウム「おいしい食で体をつくろう」※朝原宣治氏の基調講演	後1時～2時30分	500人
シンポジウム「ライフスタイルの変化と現代の食」※岡山市内の農家が登壇	後1時～2時45分	200人
ワークショップ「水分補給の重要性について考えよう」※熱中症予防がテーマ	前10時30分、前11時10分、前11時50分から各35分	各28人
さかなクン特別講演	前10時30分～正午	500人
土井善晴氏記念講演	後1時～2時30分	500人
シンポジウム「私たちの将来の食を考える」※岡山市内の高校生が登壇	後1時～2時30分	200人
ワークショップ「食べて納得!かるうま減塩ランチセミナー」※減塩ランチの試食など	後0時30分～1時40分	50人

講演やシンポ参加を

来月からの 朝原氏ら講師
食育全国大会

岡山市

岡山市は、6月30日、7月1日に岡山コンベンションセンターのさかなクンの特別講演(7月1日)▽料理メイン会場に開く「第12回食育推進全国大会記念講演(同)」など、市など主催で、シンポジウムや講演会などの参加者を募集している。

大会では、2日間で食に関する31プログラムのうち、岡山(同市北区)に開催するシンポジウム(6月30日)とジップアリーナ岡山(同市北区)に開催するシンポジウム(7月1日)は当日参加が可能。これとは別に、同市は、2日間で約2万人の来場を見込んでいる。(有国由花)

■山陽新聞 平成29年5月25日号

広報・報道

●新聞記事等

ばらずし作りで交流

後楽館 生徒と地元住民ら

後楽館高校（岡山市北区南方）の生徒と地元住民らによる「ばらずし作り」が10日、同校で開かれ、郷土料理のばらずし作りを楽しんだ。

みんなで食事をしむ「共食」と地産地消をテーマに、福祉の教科を学ぶ1、2年生14人をはじめ、南方地区婦人会メンバーや同会が食事支援をする独居のお年寄りら計約30人が参加。北区駅前町のすし店「すし亀」の

に分かれて取り組んだ。生徒は同じグループのお年寄りから包丁の扱いや食材の切り方を教わりながら調理。できた料理をテーブルに並べ、会話を交わしながら味わった。

2年の石田陽南さん（16）は「お年寄りはみんな手際が良くて勉強になる。おすしもおいしい作れた」、北区野田屋町の高田操さん（81）は「孫のような子と一緒にわいわいと料理できて楽しかった」。

同校は今春から共食と地産地消についての学習を深めており、7月1日に市内で開催する「第12回食育推進全国大会」高校生シンポジウムで、今回のイベントを含めて報告する。（秋山昌三）

一緒にばらずしを作る後楽館高の生徒と地元住民ら

■山陽新聞 平成29年6月11日号

来て見て学んで

家で実践する契機に

桃太郎「好き嫌いをなせば強くなれる」鬼「もっとご飯をしっかりと食べよう」

山陽学園短大（岡山市中区平井）の食物栄養学科の学生が手作りしたパネルシアターの一場面。偏食でコメや野菜、肉を食べない3匹の鬼を退治した桃太郎が、バランスの取れた食事をするとよい間を教える。

④親子一緒に 山陽学園短大

（幼少期からの食育が大切。そのために家族全員で食生活を考えてほしい」とリーターの2年常務副委員長。第12回食育推進全国大会では、シニアリーナ岡山（北区いずみ町の一角）に「親子一緒に食育」をテーマとしたブースを設け、子育て世代が気軽に立ち寄れる内容にして、家庭で食育を実践する契機にしようとした。

なぜ桃太郎が登場させ、5月からは放課後などに構想を練った。本番では1回約10分の上演を繰り返す予定で、学生がキャラクターに扮して、メインのパネルシアターは、保育園や幼稚園でよく使われ、子どもたちが深いところから企画、市内開催に合わせ、各地の関係団体が出展して先進事例などを紹介する。県内開催は初めてで、岡山市は期間中に2万人の来場を見込む。

食育への国民の理解を深めるため、「食育月間」（6月）の中核行事として2006年から国と開催自治体が共催。講演会やシンポジウム、食や健康をテーマにした「第12回食育推進全国大会inおかやま」（市など主催）が30日、7月1日に市内で開催。講演や実演ステージなど引プログラムと、企業などによる約110のブース出展がある。市内の学生や団体が企画した市民参加イベントの一部を紹介する。

準備に携わったのは、栄養士志望の1、2年生の18人。食物栄養学科の宮原公子学科長は「出展は学生にとっても勉強になる。大会を通じて、食育をリードする存在としての意識向上につなげたい」としている。（杉野真歩）

パネルシアターの準備を進める山陽学園短大食物栄養学科の学生

■山陽新聞 平成29年6月27日号

広報・報道

●新聞記事等

あす開幕・食育全国大会で限定販売

県産果実で新商品

ジェラート、パン 地産地消PR

食に関する国民の知識や関心の向上を図る「第12回食育推進全国大会」（農林水産省、岡山市など主催）が30日に同市内で開催される。7月1日までの2日間、全国から約2万人の来場が見込まれる大会に合わせ、「果物王国・岡山」を発信するオリジナルのジェラートと米粉パンが限定販売される。

ジェラート（150円、入り400円）は、同市の野菜ソムリエ上級プロ・江草聡美さんと、新鮮なミルクを使った商品が人気の松崎牧場（同市東区松新町）が共同開発。マスケットをすりつぶしたピューレ、新たな県産果物として注目を集めるバナナ、パイアがそれぞれ入った3種類のジェラートをカップに盛り合わせた。期間中、マスケットなどを使ったジェラート



「しっとりとした生地のパンでサンドした。ジュリアーナ岡山（同いすみ町）で1日100個を扱う計画。ともに、地産地消のアーヒルを目的に同市実行委員会から依頼を受けて作製。江草さんは「歴史あるマスケットと期待のバナナやパイアを一度に味わえ

る岡山ならではのスイーツ」とし、同工場の二宮智子事業部長は「桃とともに、かみ応えがある米粉パンの魅力を伝え、ヒット商品にしたい」と意気込む。同大会は「食育月間」（6月）の中核行事として2006年から国と開催自治体が共催。県内初開催で、岡山コンベンションセンター（同駅元町）を主会場に講演やシンポジウム、先進事例を紹介するブース出展などが行われる。（有国出花）

来て見て学んで

食育推進全国大会 in おかやま

岡山市内の歯科医でつくる市歯科医師会、第12回食育推進全国大会で、食生活を支える口の健康を無料診断するブース「健口食育健康ミング（カンクンサンマル）」をジュリアーナ岡山（北区いすみ町）に出展する。

●かむって大事

市歯科医師会

む力によって色が変化する咀嚼ガムによる測定、専用の機械を使って虫歯や歯周病の原因となる口の細菌数、エックマ菌の時間などを測るアンケーターの各コーナーを来場者に回ってもらい、国などが歯を保つ目標とする55歳（25本）と80歳（20本）の時点で残っている本数をパソコンでシミュレーションする。結果を基に、歯科医が治療や歯磨きのアドバイスをする。所要時間は約10分だ。

歯の将来本数予測



無料診断の準備を確認する市歯科医師会のメンバー

「スーム」 噛ミンク30運動。2009年に厚生労働省の有識者検討会が食育推進基本計画。2019年度で、これまでより多く食べて食べる国民の割合を15年度の49・2%から55%以上にする目標を定めている。

「よくかんで食べることは消化吸収に良いのはもちろん、歯の発達や、満腹中枢が刺激され肥満防止も期待できる。かむことと健康のつながりを伝えたい」と岡山尚史副会長。同会は、虫歯や歯周病の予防を啓発するイベント「歯ッピーフェア」などを通じて一口で30回以上かむ「噛ミンク30運動」をアピール。大会に向けて、昨年10月中旬から執行部の14人で準備を進め、同フェアで咀嚼ガムなどの人気が高く、子どもから高齢者まで将来の歯について関心を高めてもらえることから出展内容を決めた。同会の歴代直轄専務理事は「食べることは人生の楽しみにつながる。そのために、口の健康を保つきっかけにしたい」としている。（小野祐希）

■山陽新聞 平成29年6月29日号